

1. 実況上の着目点

- ① 台風第24号は大東島地方の近海を東よりに進んでいる。
- ② 前線が、四国の南から本州の南岸付近を通して日本の東にのびており、ゆっくり北上中。前線に向かって、①の台風の東側を北上する熱帯由来の下層暖湿気の流入が続いている。関東甲信地方を中心に激しい雨や非常に激しい雨を解析。大島では12時間に380ミリを観測し、平年の9月1か月分の降水量を超える大雨となっている。
- ③ 衛星水蒸気画像では、朝鮮半島から華中にかけて深まりつつあるトラフが見られる。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項②の前線は、東～西日本の太平洋側に北上した後、9日にかけてほとんど停滞する。また、7日は、1項③のトラフの接近に伴い前線上の三陸沖に低気圧が発生して、発達しながら東北東へ進む。1項①の台風第24号は、7日朝には日本の南で熱帯低気圧となり、9日は西日本太平洋側付近へ進んで前線上の低気圧に変わる。引き続き、台風や熱帯低気圧の東側を北上する熱帯由来の下層暖湿気が前線に向かって流れ込むため、大気の非常に不安定な状態が続く。一方、上層では7日はトラフの影響も受けるが、8～9日は太平洋高気圧が日本の南への張り出しを強める。7日は、東日本や東北地方の太平洋側を中心に、雷を伴う非常に激しい雨や猛烈な雨が降り大雨となる所がある。東海地方、関東甲信地方、東北地方では、線状降水帯が発生して大雨災害の危険度が急激に高まる可能性がある。これまでの大雨で地盤の緩んでいる地域では、普段より少ない雨量でも土砂災害の危険度が高まりやすいことにも留意。東日本と東北地方の太平洋側では7日は、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水や氾濫に厳重に警戒。北日本では8日にかけて、東～西日本では9日にかけて、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒。全国的に落雷、突風、降ひょう、局地的には竜巻などの激しい突風に注意。その後も、前線や低気圧の動向によっては10日頃まで大雨となる可能性がある。

- ② 2項①の台風や熱帯低気圧、前線、低気圧の影響で、全国的に強風やうねりを伴う高波に注意。発達する低気圧の影響が大きな東北地方では、7日は暴風に警戒。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量的予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項〔量的予報等〕

- ①雨量(06時からの24時間)：東北200、関東甲信180、東海・近畿150mm。 ②波浪(明日まで)：四国5、北海道・東北・関東・伊豆諸島・九州南部・奄美・沖縄4、東海・近畿・九州北部3m。

5. 全般気象解説情報発表の有無 「台風第24号」を5時頃に発表予定。